

令和6年度

一般社団法人 燃料電池開発情報センター 総会

資料

令和6年9月17日（火）

連合会館



FCDIC

一般社団法人 燃料電池開発情報センター

東京都千代田区神田淡路町一丁目19番地（お茶の水ビジネスビル 1階）

電話 03-6206-0231

令和6年度（一社）燃料電池開発情報センター
定時総会議案 目次

第1号議案 令和5年度事業報告の件

第2号議案 令和6年度事業計画の件

第3号議案 役員選任の件

令和5年度事業報告

自 令和 5年 7月 1日

至 令和 6年 6月 30日

今夏も災害級の猛暑が続き、地球温暖化の影響と考えられる数十年に一度の集中豪雨や、過去に例を見ない大型台風等の激甚災害が頻発するようになってきた。世界の先進諸国が、2050年のカーボンニュートラル達成に向けた取り組みを進める中、欧米では、代替エネルギーとして水素への転換に向けた加速政策がもたらされている。米国においては、脱CO₂には水素が必須と位置付けられ、クリーンエネルギー関連予算が約620億ドル、その内水素HUBには約80億ドルの投資が計画されると共に、10年以内に水素コストを1ドル/kgとする目標が掲げられている。欧州でもウクライナ危機が水素エネルギー活用に向けて急峻な加速政策をもたらしており、欧州域外からの調達の動きが加速するとともに、天然ガス網の水素パイプラインへの転用も含めて、2030年までに3.3万km、2040年までに6万kmの水素パイプライン整備が計画されている。一方で、中東、インド、チリ、オーストラリア等の潜在的に再生可能エネルギー資源を持つ諸国は、この機を逆手にとって水素輸出国を目指す動きが活発化しており、新たなエネルギーとしての水素をめぐる各国のそれぞれの思惑と強い本気度が感じられる。

このような国際環境の中、FCDICでは、5月のシンポジウムにおいて、ヨーロッパ・アメリカ・中国・インドに加えて国内の燃料電池・水素に関わる最新動向をNEDO様から特別講演頂き、世界ではエネルギー転換に向けた大きな動きがあることが報じられ、強い関心が寄せられた。

今後、FCDICにおいても脱化石燃料に向けた世界的な潮流を受けて、会員ニーズに基づいた燃料電池・水素の情報収集や発信を積極的に行い、燃料電池・水素の更なる普及拡大を目指した研究会など、新たな取り組みを実施していきたい。

以下、1年間の活動報告を記す。

会員数は、正会員、学会会員、海外会員それぞれ入退会による増減があり、減少は13機関(名)であったが、正会員、学会会員で4機関の増加があり、トータルでは9機関の減少であった。

総会、理事会、幹事会、並びに研究会、見学会、講習会、シンポジウム、各種広報出版などの定常的な事業活動は、ほぼ予定通り実施出来たが、新型コロナウイルス感染拡大以降、見学会と交流会を伴う研究会(講演会)を除く活動のほとんどは、対面とリモートとの併催で対応してきた。FCDIC最大の行事である5月のシンポジウムについても、口頭発表については、対面とリモートの併催で実施した。

令和5年度決算については、シンポジウムが盛況であったことから、シンポジウムの収支が予算額に対して2,004,900円増額した。また、支出は交流会等の飲食費を最適化したこと、行事等のリモート開催に伴う出張旅費等の削減に伴い661,646円予算額を下回った。その結果、令和5年度の収支差額は、1,834,500円の赤字予算に対して、1,193,419円の黒字となった。これに伴い、翌年度繰越収支差額は65,043,321円となった。

以下に令和5年度の各活動の概要を報告する。

I 会員数

	令和4年度末 (令和5年6月30日現在)	令和5年度末			令和5年度末 (令和6年6月30日現在)
		入会	退会	増減差	
正会員	101 (99)	1	10	-9	92 (90)
公共会員	1	0	0	0	1
学会会員	78	3	2	1	79
海外会員	4	0	1	-1	3
特別会員	8	0	0	0	8
合計	192 (190)	4	13	-9	183 (181)

注1) カッコ内は会費を納めている会員数。相互に団体加入あるいは相互に情報交換等の契約で、正会員2機関が会費免除。

注2) 海外会員の会員期間は毎年1月～12月。

第1号議案

II 活動状況

1 開催行事

1.1 研究会の開催

下記2回の講演会、2回の見学会を実施した。

- ① 第169回研究会（講演会）：令和5年9月7日（木）、総会・理事会・交流会と併催
 - ・場所：ソラシティカンファレンスセンター（対面で実施）
 - ・講師：「NEDOにおける燃料電池・水素の開発状況」 NEDO燃料電池・水素室 坂 秀憲 氏
「水素社会の実現に向けた大学等における基盤研究の推進」文科省研究開発局 戸辺 弘亮 氏
 - ・参加者：65名
- ② 第170回研究会（見学会）：令和5年10月18日（水）
 - ・見学場所：13:30～15:00 山梨移転後のFC-Cubic（6名×4班で見学）
15:00～17:00 米倉山次世代エネルギーシステム研究開発ビル「Nesrad」
 - ・参加者：22名（定員：24名）
- ③ 第171回研究会（講演会）：令和6年1月30日（火）、理事会・賀詞交歓会と併催
 - ・場所：連合会館203・204会議室
 - ・講師：「グリッドの調整力としての分散型資源」 電中研 坂東 茂 氏 → 代理講演 山田 智之 氏
「海外の燃料電池・水素の最新動向について」 NEDO燃料電池・水素室 坂 秀憲 氏
 - ・参加者：66名
- ④ 第172回研究会（見学会）：令和6年6月19日（水）
 - ・見学場所：産総研 福島再生可能エネルギー研究所（FREA）
 - ・参加者：24名（定員：40名）

1.2 セミナー・講習会の実施

下記のセミナーおよび講習会を実施した。

- ① 第39回セミナー：令和5年11月15日（水）10:00～18:00（但し17:00～18:00は名刺交換会）
 - ・場所：タワーホール船堀5F小ホールでの対面とリモートとのハイブリッド開催
 - ・講師：①HDV用高温運転の技術課題 山梨大 柿沼先生
②様々な水素製造技術の現状とその評価例 エネ総 石本氏
③世界のカーボンニュートラルへの取組 テクノバ 丸田氏
④カーボンニュートラルに向けた各種水電解技術の特徴とアルカリ水電解の技術課題 横国大 光島先生
⑤PEM水電解の技術課題と活性・劣化評価法の開発 産総研 五百蔵氏
⑥高耐久AEM型水電解の開発 東工大 山口先生
 - ・参加者：110名（会場参加：48名）
- ② 第36回寺子屋式講習会 令和5年12月6日（水）10:00～17:00
 - ・場所：連合会館402会議室、組立実習有のため対面のみで開催予定
 - ・講師：PEFC基礎（横国大 石原先生）、SOFC基礎（産総研 石山氏）、燃料電池・水素に関する特許の重要性（特許庁 太田氏）、概要（FCID 羽藤）
 - ・参加者：28名（文科省から轟課長・戸辺係長、阿部調査員の3名が参加）
- ③ 第37回寺子屋式講習会：令和6年6月5日（水）10:00～16:00
 - ・場所：連合会館402会議室、組み立て実習ありのため対面のみで開催
前回参加者から、4月から新年度が発足し新たに燃料電池の開発に従事する方の参加が見込まれるため、6月に組み立て実習を実施してほしいとご要望を頂いたため、6月に組み立て実習を試行。
 - ・講師：PEFC基礎（横国大 石原先生）、SOFC基礎（産総研 石山氏）、概要（FCID 羽藤）
 - ・参加人数：28名（内 学生10名）

第1号議案

1.3 燃料電池シンポジウムの開催

第31回燃料電池シンポジウムは5月23(木)～24日(金)の日程で、タワーホール船堀において開催した。口頭発表については、会場とオンラインのハイブリッドで開催し、ポスター発表については1階展示会場のみで開催した。

- ① 参加者：約440名(対前年比約70名増)
交流会参加者：約130名(対前年比40名強増)
- ② 口頭発表
 - ・特別講演5件：NEDO 海外事務所からインド・中国・米国・欧州の最新動向と、川崎本部から日本の最新状況
 - ・受賞講演2件：産業貢献賞1件、奨励賞1件
 - ・HESS 連携セッション4件：水電解関連
 - ・依頼講演11件：PEFC 要素技術5件、PCFC 要素技術1件、移動体3件、定置用2件
 - ・応募講演：22件(若手招待講演3件および製品紹介2件含む)

1.4 交流会、賀詞交換会の開催

令和5年9月7日の総会時に交流会、令和6年1月30日に賀詞交歓会を開催し、会員相互の懇親、情報交換を図った。

2 広報・出版

2.1 機関誌「燃料電池」の発行

機関紙「燃料電池」を季毎に4回発行して配布し、その時々燃料電池の最新技術を会員に紹介した。以下に各号の特集および頁数を記す。

- ・「燃料電池」夏号 Vol. 23 No. 1、2023 特集「燃料電池システム～用途との関係～」91 頁
- ・「燃料電池」秋号 Vol. 23 No. 2、2023 特集「若手研究者が考える燃料電池の未来」151 頁
- ・「燃料電池」冬号 Vol. 23 No. 3、2024 特集「水電解による水素製造とその普及」105 頁
- ・「燃料電池」春号 Vol. 23 No. 4、2024 特集「CO₂電解還元一要素技術および用途展開」95 頁
- ・「燃料電池」増刊号 Vol. 23、2024 特集「燃料電池誌/基礎講座特集」133 頁

2.2 「FCDIC Report」の発行

海外会員向けには「FCDIC Report」を隔月にメール配信し、FCDICホームページにも掲載した。

2.3 年報の発行

2023 年度版年報「日本における燃料電池の開発」(191 頁)を和文と英文で一冊に集約して発行した。内容は、日本の燃料電池開発状況概観、燃料電池における国家プロジェクトの現状、各業界・特別会員・公共会員の活動状況、各機関の開発・活動状況の他、会員の発表論文一覧、FCDIC の主な活動、FCDIC 会員名簿、および国際標準化、水素ステーション情報、燃料電池用語集からなる資料編で構成した。発行は WEB サイトから PDF をダウンロードする形式であり、外販も行っている。

2.4 FCDIC ウェブサイト

令和5年2月からFCDICのホームページをより多くの方々に閲覧頂けることを目指して、より分かりやすかつシンプルにリニューアルした。燃料電池に関連するシンポジウム、セミナー、機関誌、FCDIC Report、研究会などを適宜項目毎に分割して情報を発信している。また、下に述べる「夢の燃料電池10」作業部会からの情報発信と、燃料電池・水素に関わる「よろず相談窓口」を新規に開設した。

2.5 展示会出展

H2&FC EXPO 2023秋と2024春において、ブースにて展示を行い、FCDIC の活動を広く一般に広報した。また、春の EXPOでは、5月のFCDICシンポジウムの広報のため、プログラムの配布等を実施した

第1号議案

3 「夢の燃料電池10」WG活動（50年後の燃料電池を考えるWG活動から名称変更）

夢の燃料電池の姿（燃料電池を利用する上での水素を含む）をリストアップし、FCDICのホームページで公開し、このリストを多くの研究者に参考いただくと共に、今後の研究開発の参考としていただくこととした。

また、キャッチーな「夢の燃料電池」を表すネーミングと、そのネーミングの意図を解説し、更に夢を達成するために必要と思われる技術を掲載し、ブレークダウンが必要と思われる技術については、更に技術の内容を記載・解説した。

<ネーミング>

- ① エンジンより安い燃料電池（移動体用及び定置用）
- ② 燃料電池豪華客船で世界一周（本来スケールメリットがないことが燃料電池の特徴であるが、例えばGW以上の大容量でもエンジンよりコンパクトな超高エネルギー密度を実現する燃料電池）
- ③ どこでも使える燃料電池（極地や高山や温泉地、臨海地域でも使える）
- ④ ずっと使える燃料電池
- ⑤ どんな燃料でも使える燃料電池（アンモニア、炭化水素系燃料等を直接燃料として利用できる燃料電池）
- ⑥ 給湯器より安いエネファーム
- ⑦ リサイクルできる燃料電池
- ⑧ どんな燃料より安いグリーン水素

以上の案に対し広く意見を募集して、これを基に内容を充実していくため今後のWG活動を実施する。

4 共催・協賛・後援

以下に承認した共催・協賛・後援行事を列举する。

令和5年7月1日～令和6年6月30日にご依頼をいただいたイベント等を掲載している。開催日は令和5年度とは限らない。

<共催>

第14回新電極触媒シンポジウム&宿泊セミナー

主催：一般社団法人触媒学会 燃料電池関連触媒研究会

開催日：2023年10月27日(金)～10月28日(土)

場所：東レ総合研修センター

HYPOTHESIS XIX Hiroshima, Japan

Hydrogen Power Theoretical & Engineering Solutions International Symposium

主催：HYPOTHESIS XIX 実行委員会

開催日：2024年7月14日(日)～7月18日(木)

場所：広島国際会議場

「H2 & FC EXPO【秋】2024～国際水素・燃料電池展【秋】～」

「H2 & FC EXPO【春】2025～国際水素・燃料電池展【春】～」

主催：RX Japan株式会社

開催日：2024年10月2日(水)～10月4日(金) 「H2 & FC EXPO【秋】2024」

2025年2月19日(水)～2月21日(金) 「H2 & FC EXPO【春】2025」

場所：幕張メッセ (H2 & FC EXPO【秋】2024)

東京ビッグサイト (H2 & FC EXPO【春】2025)

<協賛>

エネルギー技術対策委員会 2023年度主催講演会「日本における将来のエネルギーのあり方」

主催：一般財団法人大阪科学技術センター エネルギー技術対策委員会

開催日：2023年11月17日(金)

場所：大阪科学技術センター4階404号室およびオンライン開催 (zoom)

第1号議案

第2回 SOFC/SOEC 課題共有フォーラム

主催：SOFC 研究会、燃料電池実用化推進協議会

開催日：2023年11月28日（火）

場所：お茶の水ソラシティカンファレンスセンター Room B 対面及びオンライン配信

第43回水素エネルギー協会（HESS）大会・2023HESS 特別講演会

主催：一般社団法人水素エネルギー協会

開催日：2023年12月13日（水）～12月15日（金）

場所：ハイブリッド（対面：タワーホール船堀小ホール）

第32回 SOFC 研究発表会

主催：SOFC 研究会

開催日：2023年12月14日（木）～12月15日（金）

場所：対面-Webハイブリッド方式、対面会場（TKP 東京駅カンファレンスセンター）

燃料電池・FCH部会 2023年度公開シンポジウム

主催：一般財団法人大阪科学技術センター 燃料電池・FCH部会

開催日：2024年1月26日（金）

場所：大阪科学技術センター 4F 401 会議室およびオンライン（zoom）

第18回再生可能エネルギー世界展示会&フォーラム（略称 RE2024）

主催：特定非営利活動法人再生可能エネルギー協議会

開催日：【展示会】2024年1月31日（水）～2月2日（金）

【フォーラム】2024年1月22日（月）～1月30日（火）

場所：【展示会】東京ビッグサイト 東ホール

【フォーラム】オンライン

2024年関東支部セミナー 1から学ぶ電気化学のいろは（原理からアプリケーションまで）

主催：公益社団法人電気化学会 関東支部

開催日：2024年5月15日（水）

場所：慶応義塾大学日吉キャンパスおよびオンライン

電気化学会関東支部 第60回学際領域セミナー『水素社会実現へ向けた水電解・燃料電池の最前線』

主催：公益社団法人電気化学会 関東支部

開催日：2024年8月26日（月）

場所：ハイブリッド開催（ライブ配信（Zoom利用）、
早稲田大学 121号館 リサーチイノベーションセンター コマツホール（B1F）

第7回アジア固体酸化物形燃料電池シンポジウム（7th Asian SOFC Symposium）

主催：SOFC 研究会、北海道大学

開催日：2024年10月23日（水）～10月25日（金）

場所：北海道大学

第65回電池討論会

主催：公益社団法人電気化学会 電池技術委員会

開催日：2024年11月20日（水）～11月22日（金）

場所：国立京都国際会館

第1号議案

<後援>

日独水素シンポジウム 2023

主催：ザールランド州

開催日：2023年9月26日（火）、9月28日（木）

場所：【東京開催（9月26日）】渋谷ソラストコンファレンス

【神戸開催（9月28日）】神戸国際会議場

水素輸入への専門家ワークショップ ー海上輸送と港湾インフラストラクチャー

主催：日独エネルギーパートナーシップ

開催日：2023年9月27日（水）

場所：赤坂インターシティコンファレンス（東京）4F the Amphitheater

九州水素・燃料電池フォーラム & 水素先端世界フォーラム 2024

主催：九州大学水素材料先端科学研究センター、九州大学エネルギー研究教育機構、

九州経済産業局、福岡県水素グリーン成長戦略会議

開催日：2024年2月1日（木）

場所：九州大学医学部百年講堂大ホール & オンライン配信（Teams）

課題解決 EXPO2024 エコテクノ 2024 ～地球環境ソリューション展/エネルギー先端技術展～（第29回）

主催：福岡県、北九州市、公益財団法人北九州観光コンベンション協会

開催日：2024年7月3日（水）～7月5日（金）

場所：西日本総合展示場 新館・本館中展示場

<協力>

特許庁任期付職員（特許審査官補）の採用について

募集元：特許庁

応募締切日：2023年11月13日（月）受信有効

FC-人材育成講座 2023-2024 燃料電池普及拡大に向けた人材育成講座

主催：国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構

開催日：2023年11月16日（木）～2024年6月

場所：国際交流会館メディアホールおよびオンライン同時開催

筑波大学オープンイノベーションシンポジウム

「サステナブルな社会の創造 ～カーボンニュートラル社会に向けて～」

主催：筑波大学国際産学連携本部 オープンイノベーション国際戦略機構

開催日：2024年1月23日（火）

場所：コンgresクエア日本橋ホールA・Bおよびオンライン

やまなしミライエネルギーフェス 2024

主催：一般社団法人FCyFINE PLUS

開催日：2024年3月8日（金）～3月9日（土）

場所：メイン会場；米倉山次世代エネルギーシステム研究開発ビレッジ「Nesrad」

サブ会場；風土記の丘農産物直売所

公益信託 ENEOS 水素基金 2024 年度

募集元：三井住友信託銀行株式会社

応募締切日：2024年5月10日（金）必着

第1号議案

NEDO 水素・燃料電池成果報告会 2024

主催：国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構

開催日：2024年7月18日（木）～7月19日（金）

場所：パシフィコ横浜 アネックスホールおよびオンライン併用

5 顕彰制度

産業貢献賞、学術賞および奨励賞について、令和5年7月～8月に募集を行った。選考委員会での審議結果に基づき、幹事会および理事会で了承が得られ、受賞者は以下の通りとなった。第31回燃料電池シンポジウムにおいて、表彰式および受賞記念講演を実施した。

1. 産業貢献賞

- 業績題目：「研究開発用単セル（JARI 標準セル、JARI セル2）の開発」
- 受賞機関：（一財）日本自動車研究所（正会員）

2. 奨励賞

- 業績題目：「インフォマティクス手法を活用した卑金属電極触媒の効率設計」：
- 受賞者：東京工業大学 菅原 勇貴 氏（学術会員）

III 決算の概要

令和5年度については、会費収入はほぼ維持するとともに、シンポジウム等イベントの参加費収入は目標値を設定して積み上げた結果、予算収入を34,242,500円とした。一方、支出については引き続き活発な活動を維持することとして、前年度の予算をベースに検討を行い、36,077,000円とし、1,834,500円の赤字予算とした。

以下、実績について説明する。

まず収入については、会費収入はほぼ予算通りであったが、イベント等の参加費収入については、シンポジウムの参加人数が昨年より増加したことからシンポジウムに関わる収入が増収となった。その結果、令和5年度の収入予算額34,242,500円に対し、収入の決算額が36,608,773円となり、収入については令和5年度予算額に対し、2,366,273円の増収となった。

一方、支出については、交流会等の飲食費を最適化したこと、行事等のリモート開催に伴う出張旅費等の削減に伴い予算額を下回った。その結果、令和5年度の支出予算額36,077,000円に対し、決算支出合計は、予算より661,646円少ない35,415,354円となった。

以上の結果、令和5年度1,834,500円の赤字予算額に対し、決算額は1,193,419円の黒字となった。この結果、翌年度繰越収支差額は65,043,321円となった。

令和5年度決算案を別紙に示す。

令和5年度決算報告書

自 令和5年7月 1日

至 令和6年6月30日

正味財産増減計算書

(単位:円)

項 目	予算額	決算額	備 考
収益			
1. 会費	23,312,000	22,552,000	
(1)正会員会費	22,320,000	21,620,000	会員数92
(2)公共会員会費	120,000	120,000	会員数1
(3)海外会員会費	240,000	180,000	会員数3
(4)学術会員会費	632,000	632,000	会員数79
2. シンポジウム費	4,500,000	6,504,900	参加費、交流会費、展示会費等
3. 講習会参加費	2,300,000	2,347,800	セミナー、寺子屋参加費
4. 資料頒布	30,000	49,890	講習会テキスト、年報等
5. 機関誌頒布	800,000	753,730	燃料電池誌頒布、広告掲載収入
6. 雑収入	3,300,500	4,400,453	預金利子、共催協力金
本年度収益計(A)	34,242,500	36,608,773	

(単位:円)

項 目	予算額	決算額	備 考
費用			
1. 会議・会場費	3,580,000	3,147,982	セミナー・講習会・シンポジウム・各委員会 会場費他
2. 印刷製本代	2,390,000	2,192,218	機関誌、年報、予稿集他
3. 渉外費	2,050,000	1,406,826	賀詞交歓会費、シンポジウム交流会費
4. 旅費交通費	1,280,000	972,810	委員会委員旅費、情報調査旅費、 学会・研究会参加旅費、職員通勤費他
5. 外注費	1,640,000	1,720,400	年報翻訳、シンポジウムWEB申込サイト構築、 HPリニューアル
6. 諸謝金	1,870,000	1,584,449	機関誌原稿料、講習会講師謝礼、 税理士謝礼
7. 諸会費	300,000	273,961	学会参加費、各種団体会費他
8. 新聞図書費	50,000	0	書籍代他
9. 事務用品費	144,000	120,061	複写代、事務用品
10. 消耗品費	100,000	64,729	消耗品
11. 通信運搬費	680,000	329,129	郵送料、電話料、Web管理費、 メールボックス使用料他
12. 支払手数料	496,000	502,418	振込手数料、保守料金、PayPal手数料他
13. 給料手当・賞与	13,248,000	14,726,168	職員給与・賞与
14. 臨時賃金	180,000	198,130	シンポジウム アルバイト雇用代
15. 法定福利費	1,622,000	1,545,474	社会保険料
16. 公租公課	100,000	290,000	法人税、印紙代
17. 福利厚生費	75,000	70,564	健康診断補助他
18. 借室費	3,900,000	3,896,093	家賃
19. 光熱費	360,000	258,469	水道光熱費
20. リース費	852,000	850,800	複合機、セキュリティサーバー他
21. 賃借料	220,000	170,000	バスチャーター代
22. 事務所整備費	400,000	502,281	Zoom導入費用、PC購入、什器備品他
23. 退職金	0	0	退職慰労金
24. 雑費	440,000	592,392	部屋清掃費、ごみ処理券、火災保険他、 寺子屋組立キット購入他
25. 予備費	100,000	0	
本年度費用計(B)	36,077,000	35,415,354	
本年度収支差額(A)-(B)	-1,834,500	1,193,419	
前年度正味財産額(C)	63,849,902	63,849,902	
翌年度繰越正味財産期末残高 (A)-(B)+(C)	62,015,402	65,043,321	

貸借対照表

令和6年6月30日現在

(単位:円)

資産の部		負債および正味財産の部	
項目	金額	項目	金額
【流動資産】	68,191,571	【流動負債】	5,364,250
現金	86,941	前受金	4,288,000
普通預金	47,510,138	源泉税預り金	281,583
定期預金	20,000,000	未払消費税	210,000
未収入金	27,500	未払費用	584,667
前払費用	566,992		
【固定資産】	2,216,000	【正味財産】	65,043,321
敷金	2,000,000		
電話加入権	216,000	(内当期正味財産増加額)	65,043,321
合計	70,407,571	合計	70,407,571

財産目録

令和6年6月30日現在

(単位:円)

項 目	金 額	備 考
資産の部		
【流動資産】		
現金	86,941	手元現金
預 金	67,510,138	
(内 訳)		
みずほ銀行 神田支店	2,155,362	普通 主預金通帳
同 上	24,129,020	普通 燃料電池シンポジウム用通帳
同 上	14,941,047	普通 燃料電池講習会用通帳
同 上	10,000,000	定期 預金
三井住友銀行 神田支店	5,611,455	普通 会費振込用通帳
同 上	10,000,000	定期 預金
PayPal	673,254	決済サービス 海外取引用
未収入金	27,500	シンポジウム参加費
前払費用	566,992	会場費、家賃他
【固定資産】		
敷 金	2,000,000	事務所敷金
電話加入権	216,000	事務所電話 03-6206-0231 ファクシミリ 03-6206-0232
合 計	70,407,571	
負債の部		
前受金	4,288,000	令和6年度会費前受金
源泉税預り金	281,583	源泉所得税預り金
未払消費税	210,000	消費税
未払費用	584,667	会場費、出張旅費、事務用品購入費等
合 計	5,364,250	
差引正味財産	65,043,321	

令和5年度事業報告・決算報告に関する監事の意見

令和5年度事業報告・決算報告について監査した結果、
適法かつ妥当であることを認めます。

令和6年8月7日

監事 神谷 信行



監事 小関 和雄



監事 横川 晴美



令和6年度事業計画の件

自 令和6年 7 月 1 日

至 令和7年 6 月30 日

世界中で水素・燃料電池関連の技術開発および社会実装に向けた取組が大きく加速している中、大型トラックやバス、船舶、鉄道等、移動体用燃料電池の多用途展開と、より大型の移動体用として燃料電池への期待が高まっている。大型・商用モビリティ（HDV）用途としては、従来の乗用車等と比べて、より高い耐久性、作動温度の高温化、より長い航続距離や搭載性、コスト削減等が求められており、その目標達成のためには、従来にない非連続な技術開発も求められている。定置用燃料電池に関しては、カーボンニュートラルの観点から分散型の純水素型燃料電池システムが開発・販売されている。

トップランナーである日本の燃料電池産業が、今後も継続的に成長できるよう、FCDICにおいては世界の最先端の燃料電池・水素分野の動向をタイムリーに発信して行けるよう、引き続き取り組みを実施していきたい。

今年度の活動の主なものは次のとおりである。

I 活動計画

1 開催行事

1.1 総会・交流会、賀詞交歓会

令和6年度総会を令和6年9月17日（火）に、賀詞交歓会を令和7年1月28日（火）に開催する。総会時には交流会を催し、賀詞交歓会と共に会員相互の親睦を図る場とする。

1.2 第32回燃料電池シンポジウム

令和7年5月22日（木）、23日（金）にタワーホール船堀において開催の予定である。

1.3 研究会

講演会を年2回、見学会を年2回程度予定している。講演テーマ、見学場所等の選定は会員の要望を踏まえ、企画委員会にて検討していく。

1.4 セミナー・講習会

昨年好評を頂いた、水電解・水素のテーマに加えて、革新的GX技術創出事業（GteX）水素領域の研究状況に関するセミナーを本年11月13日（水）に開催する。初心者向け講習会（寺子屋式講習会）については、年2回を予定している。

2 広報・出版

2.1 機関誌「燃料電池」の発行

燃料電池に特化した学術雑誌（年4回発行）として、内外の動向に応える内容でPDF版として発行を継続する。

2.2 2024年度版年報「日本における燃料電池の開発」の発行

日本における燃料電池の開発状況を、和文と英文で一冊に集約してPDF版として発行する。

2.3 「FCDIC Report」の発行 海外会員向けの情報として、「FCDIC Report」の発行を継続する。

2.4 ウェブサイトの充実

FCDICのホームページに会員専用サイトを設け、機関誌や年報や研究会テキストのPDF版をダウンロードして

第2号議案

いただき、新たに燃料電池・水素に関する「よろず相談窓口」を開設した。また、シンポジウムやセミナー等のタイムリーな情報発信の方法として今年度も見直しを実施する。

3 海外調査

重要度の高い国際会議に出席し、燃料電池関連情報を機関誌等に報告する。

4 共催・協賛・後援

令和6年10月2日（水）～10月4日（金）、令和7年2月19日（水）～2月21日（金）と、千葉と東京で2回開催予定の国際水素・燃料電池展(H2&FC EXPO)に共催機関として参加すると共に、展示ブースにおいてFCDICの活動を展示し広報する。その他の共催・協賛・後援についても、幹事会の承認の下、積極的に引き受ける。

5 夢の燃料電池10 WG活動

50年後の燃料電池を考えるWGから名称変更し、本格普及に向けて引き続き開発が進められている燃料電池の夢の姿を議論しまとめる作業部会を実施する。夢の燃料電池の姿（燃料電池を利用する上での水素を含む）をリストアップし、FCDICのホームページで公開している。このリストを多くの研究者に参考いただき、今後の研究開発の参考としていただくこととする。

6 グリーン水素研究会

（一社）日本プロジェクト産業協議会（JAPIC）が主催する水素サプライチェーン整備委員会に参画し、その動向を踏まえた上で、FCDIC独自のグリーン水素研究会の方向性を検討する。

7 顕彰制度

産業貢献賞、学術賞ならびに奨励賞の募集を7月～8月に行う。表彰式は第32回燃料電池シンポジウムでの挙行を予定している。

II 予算の概要

再生可能エネルギーをベースとする水素エネルギーシステムの構築に向けた動きは世界的な潮流になりつつあり、ウクライナ問題を受けて、特にヨーロッパ、アメリカにおいては、その動きがより急速に加速しつつある。今後は内外の水素・燃料電池普及に向けた活動は更に活発化するものと期待される。FCDICとしても、今後水素分野に関わる情報発信により積極的に取り組んでいきたい。

本年度は昨年度と同等レベルの90社の正会員数でスタートする。今年度は、例年並みの会員数やシンポジウム・セミナー等への参加者を期待して収入予算を積み上げ、36,650,500円の収入予算を組んだ。一方、支出については引き続き活発な活動を維持することと、会員サービスの充実を目指して、今後も対面とリモートの併用での情報発信を進めるための外注費と事務所整備費を計上し、前年度の予算をベースに検討を行い、総額37,170,000円とし、519,500円の赤字予算とした。

令和6年度予算を別紙に示す。

令和6年度予算

自 令和6年7月1日
至 令和7年6月30日

収支予算書

(単位:円)

項 目	令和6年度予算額	令和5年度予算額	令和5年度決算額	備 考
収入				
1. 会費	22,500,000	23,312,000	22,552,000	
(1)正会員会費	21,600,000	22,320,000	21,620,000	会員数90+途中入会
(2)公共会員会費	120,000	120,000	120,000	会員数1
(3)海外会員会費	180,000	240,000	180,000	会員数3
(4)学術会員会費	600,000	632,000	632,000	会員数72+途中入会
2. シンポジウム費	6,500,000	4,500,000	6,504,900	参加費、交流会費、展示会費等
3. 講習会参加費	2,400,000	2,300,000	2,347,800	セミナー、寺子屋参加費等
4. 資料頒布	50,000	30,000	49,890	講習会テキスト、年報等
5. 機関誌頒布	800,000	800,000	753,730	燃料電池誌頒布、広告掲載収入
6. 雑収入	4,400,500	3,300,500	4,400,453	預金利子、共催協力金等
本年度収入合計(A)	36,650,500	34,242,500	36,608,773	

令和6年度予算

(単位:円)

項 目	令和6年度予算額	令和5年度予算額	令和5年度決算額	備 考
支出				
1. 会議・会場費	3,300,000	3,580,000	3,147,982	セミナー・講習会・シンポジウム・各委員会 会場費他
2. 印刷製本代	1,740,000	2,390,000	2,192,218	機関誌、年報、予稿集他
3. 渉外費	1,850,000	2,050,000	1,406,826	総会交流会、賀詞交歓会費、 シンポジウム交流会費
4. 旅費交通費	1,200,000	1,280,000	972,810	委員会委員旅費、情報調査旅費、 学会・研究会参加旅費、職員通勤費他
5. 外注費	1,900,000	1,640,000	1,720,400	翻訳、ウェブサイト構築他
6. 諸謝金	1,700,000	1,870,000	1,584,449	機関誌原稿料、講習会講師謝礼、 税理士謝礼
7. 諸会費	580,000	300,000	273,961	学会参加費、各種団体会費他
8. 新聞図書費	50,000	50,000	0	書籍代他
9. 事務用品費	140,000	144,000	120,061	複写代、事務用品
10. 消耗品費	100,000	100,000	64,729	消耗品
11. 通信運搬費	400,000	680,000	329,129	郵送代、電話料、Web管理費、 メールボックス使用料他
12. 支払手数料	550,000	496,000	502,418	振込手数料、保守料金、PayPal手数料他
13. 給料手当・賞与	14,800,000	13,248,000	14,726,168	職員給与・賞与
14. 臨時賃金	220,000	180,000	198,130	アルバイト雇用代
15. 法定福利費	1,720,000	1,622,000	1,545,474	社会保険料
16. 公租公課	330,000	100,000	290,000	法人税、印紙代
17. 福利厚生費	75,000	75,000	70,564	健康診断補助他
18. 借室費	4,140,000	3,900,000	3,896,093	家賃、更新料
19. 光熱費	300,000	360,000	258,469	水道光熱費
20. リース費	885,000	852,000	850,800	複合機、セキュリティーサーバー他
21. 賃借料	200,000	220,000	170,000	バスチャーター代他
22. 事務所整備費	450,000	400,000	502,281	Zoom導入費用、什器備品他
23.退職金	0	0	0	退職慰労金
24. 雑費	440,000	440,000	592,392	部屋清掃費、ごみ処理券、火災保険 寺子屋組立キット購入他
25. 予備費	100,000	100,000	0	
本年度支出合計(B)	37,170,000	36,077,000	35,415,354	
本年度収支差額(A)-(B)	-519,500	-1,834,500	1,193,419	
前年度繰越収支額(C)	65,043,321	63,849,902	63,849,902	
翌年度繰越収支額 (A)-(B)+(C)	64,523,821	62,015,402	65,043,321	

令和6年度 役員選任の件

I 役員

新	理事	岡崎 健	東京工業大学名誉教授	(代表理事候補)
	理事	佐薙 徳寿	東芝エネルギーシステムズ (株)	(副代表理事候補)
新	理事	井上 雅之	(一社) 日本ガス協会	(副代表理事候補)
	理事	羽藤 一仁	(一社) 燃料電池開発情報センター	(常任理事候補)
	理事	佐藤 康司	ENEOS (株)	
	理事	原 達範	大阪ガスマーケティング (株)	
	理事	辰巳 国昭	(国研) 産業技術総合研究所	
	理事	石田 政義	筑波大学	
	理事	麦倉 良啓	(一財) 電力中央研究所	
新	理事	小林 徹	東京ガス (株)	
	理事	雨宮 一樹	トヨタ自動車 (株)	
	理事	梅田 実	長岡技術科学大学	
	理事	可児 幸宗	パナソニックホールディングス (株)	
新	理事	小山 茂樹	(株) 本田技術研究所	
新	理事	北川 雄一郎	三菱重工業 (株)	
	監事	神谷 信行	横浜国立大学	
	監事	小関 和雄	元FCDIC 常任理事・前顧問	
	監事	横川 晴美	東京大学 シニア協力員	

II 顧問 ※顧問は役員ではございませんがご報告いたします。

新 太田 健一郎 横浜国立大学名誉教授

III 役員 (理事、監事) の新任、重任、退任、辞任、次回選任予定

<新任>

岡崎健【代表理事】、井上雅之【副代表理事】、小林徹【理事】、小山茂樹【理事】、北川雄一郎【理事】

<重任>

佐薙徳寿【副代表理事】、羽藤一仁【常任理事】、佐藤康司【理事】、石田政義【理事】、麦倉良啓【理事】、梅田実【理事】、神谷信行【監事】、横川晴美【監事】
雨宮一樹【理事】、可児幸宗【理事】

<退任 (任期满了) >

太田健一郎【代表理事】、高野純【理事】、小林由則【理事】

<辞任>

三浦一郎【副代表理事】、門正之【理事】

<次回選任予定 (令和7年度定時社員総会終結をもって任期满了) >

原達範【理事】、辰巳国昭【理事】、(雨宮一樹【理事】、可児幸宗【理事】)、小関和雄【監事】